

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (1/5)

学部・学科	臨床心理学部・教育福祉心理学科	職名	准教授	氏名	マツイ マナ 松井 愛奈
学歴	平成 8年 3月 同志社大学文学部英文学科 卒業 平成10年 3月 お茶の水女子大学大学院家政学研究科児童学専攻修士課程 修了 平成15年 3月 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科人間発達科学専攻博士後期課程 修了				
学位	平成 9年 3月 家政学修士 (お茶の水女子大学) 平成15年 3月 人文科学博士 (お茶の水女子大学)				
専門分野	保育学、発達心理学				
専門資格	保育士 (埼玉県 018110)				
所属学会	平成10年 9月 日本発達心理学会 平成11年 5月 日本保育学会 平成25年 4月 日本乳幼児教育学会				
受賞					
担当 授業科目	学 部 保育原理、保育者論、保育内容演習 (環境)、保育実習指導、保育実習、相談援助1、相談援助2、教育福祉心理学概論、教育福祉心理学基礎演習、教育福祉心理学演習、教育福祉心理学演習、臨床心理学研究法演習、臨床心理学研究法演習、心理学研究法				
論文指導	論文指導担当 [主査] (卒論：なし) 論文審査担当 [副査] (卒論：9名)				
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	科目名	科目カテゴリー	実施学期	履修者数	
	保育原理	講義・演習・実習・実験	春・秋	24名	
	授業の概要： 保育とは何か。保育の目的、内容、方法、成立の歴史など、乳幼児の発達において重要な保育の原理について学ぶ。				
教育活動の振り返り 教育活動の成果： 保育の原理について、抽象的・表面的な捉えにとどまることなく、具体的に理解できるよう、映像を使用したり、学生が他の授業で経験していることと結びつけたりしながら、常に理論につながる具体例を挙げて説明することを心がけた。また、受動的に講義を受けるだけでなく、意見の発表・議論を通して、学生がより主体的に講義に参加できる時間を設けた。授業で使用したワークシートやコメントシートを回収し、授業の理解度を確認しつつ、後日の授業においてワークシートの内容にも言及した。板書と口頭による説明のほか、必要に応じてパワーポイントの使用、副教材としてのレジュメ配布等も行った。 授業をよりよくするためのアンケート項目について、下記「今後の課題」に挙げた2点以外は中間・期末ともに全体平均より高く、「熱心に取り組めたか」「授業への満足度」は中間アンケートより期末アンケートの方が高かった。自由記述では「映像を見て楽しみながら授業を受けられた」「ビデオを見て学ぶことがたくさんあった」「秋学期の科目の中で一番熱心に取り組めた」など肯定的なコメントがあった。したがって、シラバスに記載した内容は概ね達成され、上述した授業方法や工夫について一定の成果があったと考えられる。 今後の課題： アンケート項目のうち「予習・復習・課題などに費やす時間」が全体平均より低かった。それらは本来、学生の自主性に任されるものではあるが、もう少し意識的に予習・復習・課題に時間をかけて取り組めるよう工夫をしていきたい。また、「シラバス」は授業初回に提示したが、シラバスに対する意識も低いようである。授業期間に渡って提示するなど改善を図りたい。					

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2/5)

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">F D 教 育 実 績 ・ 活 動</p>	<p>・学内外のFD関連講演会/セミナー等への参加実績 平成26年10月30日 学内 2014年度第1回FD講演会「京都文教大学の初年次教育を考える ジェネリック・スキルを育てるための科目間連携」(発題者：総合社会学部・准教授 手嶋英貴氏)に参加。</p> <p>・教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等 1. 授業時間外に、学生の進路や資格取得に関する相談に対応した。 2. 教育福祉心理学科1回生対象の授業「初年次演習」において、保育士の仕事と専門性に関する講義を行った。</p>
<p>H26 年度 研究課題</p>	<p>1. 子どもの遊びを育む保育環境 想定外を生かす環境構成 2. 保育における幼児の自然環境とのかかわり</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">平 成 二 十 六 (2014) 年 度 の 研 究 活 動 の 概 要</p>	<p>1. 保育の物理的環境における「想定外」の使い方に関して、保育現場における縦断的観察調査を継続し、事例データの収集および分析を行っている。観察記録は次回訪問時に園へフィードバックし、撮影した写真およびVTRのデータも随時提出している。また、保育者に対する質問紙調査および観察調査について、学会発表を行った。後述:(学会報告、学会活動)1、(調査活動)</p> <p>2. 保育の物理的環境における「想定外」の使い方に対して、ニュージーランドにおける保育施設6園、小学校1園における観察調査、保育者に対する質問紙調査および面接調査を実施した。撮影した写真およびVTRのデータは各園に送付した。質問紙調査について学会発表を行い、現在、観察調査について分析を行っている。後述:(学会報告、学会活動)2、(調査活動)</p> <p>3. 自然環境の豊かな園における子どもの遊びについての観察調査を継続するとともに、事例データの収集および分析中である。後述:(調査活動)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">平 成 二 十 六 (2014) 年 度 の 主 な 研 究 成 果 等</p>	<p>(著書) 1. 『保育の実践・原理・内容 写真でよみとく保育 [第3版]』、共著、平成26年4月、ミネルヴァ書房、共編著者：無藤隆・増田時枝、224p 2. 「子どもの遊びとニュータウン」、共著、平成27年3月、昭和堂、杉本星子・小林大祐・西川祐子編、『京都発！ニュータウンの 夢 建て直します 向島からの挑戦』(pp.102-104, 256p)</p> <p>(論文) (学会報告、学会活動) 1. 「子どもが見出す・つくり出す保育環境 「想定外」の使い方(2)」(ポスター発表) 単独、平成26年5月、日本保育学会第67回大会、大阪総合保育大学・大阪城南女子短期大学(大阪) 2. 「保育における物理的環境と想定外の使い方(2) ニュージーランドの保育者に対する質問紙調査」(ポスター発表) 単独、平成27年3月、日本発達心理学会第26回大会、東京大学(東京)</p> <p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)</p> <p>(調査活動) 平成26年度 幼稚園における幼児の遊びと保育環境に関する観察調査(兵庫県)「平24.5より」 平成26年度 保育所における乳幼児の遊びと保育環境に関する観察調査(兵庫県)「平25.5より」 平成26年 6月 幼稚園における公開保育への参加と保育観察(奈良県) 平成26年 8月 乳幼児の遊びと保育環境に関する観察調査、保育者に対する質問紙・面接調査(ニュージーランド)</p> <p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含) 平成 25 年度-平成 27 年度 科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金(若手研究(B))「子どもの遊びを育む保育環境 想定外を生かす環境構成」(課題番号:25750379)研究代表者</p> <p>(学内活動) 自己点検・評価 教育研究専門委員会委員、教務委員会委員、「人を対象とする研究」倫理審査委員会委員、PSW・保育士課程委員会委員</p>

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (3/5)

<p>平成二十六年(2014)年度の社会における活動</p>	<p>(小中高との連携授業の講師)</p> <p>平成26年 6月 1. 洛西高等学校模擬授業「乳幼児の心と発達」於：同校 2. 京都文教高等学校3年生ALP講義「教育福祉心理学科の学びとキャリア形成 資格を生かした専門職を目指して」於：同校</p> <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本発達心理学会 国際研究交流委員「平25.1より(平27.1まで)」 ・ 京都文教大学人間学研究所共同研究プロジェクト「地域人材育成のためのプログラム構築と制度整備支援にむけた学際的研究」(平成26年度)メンバー「平25.4より」 <p>平成26年 6月 2014年度京都文教大学オープンキャンパス模擬授業「子ども同士のかかわりはどのようにして生まれる? きっかけから見る乳幼児の遊び」於：京都文教大学</p>
<p>平成二十一年(2009)～二十五(2013)年度の主な研究成果等</p>	<p>(著書)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 『保育の実践・原理・内容 写真でよみとく保育』、共著、平成18年4月初版第1刷(平成21年3月第2版第1刷) ミネルヴァ書房、共編著者：無藤隆・増田時枝、203p 2. 「部7章 子どもの遊びと仲間との相互作用のきっかけ」、共著、平成24年3月、金子書房、清水由紀・林創編著、『他者とかわる心の発達心理学 子どもの社会性はどのように育つか』(pp.113-128, 215p) 3. 「第3章 1. 人のかかわりあいと子どもの発達」、共著、平成24年4月、光生館、小田豊・丹羽さかの編、『保育の心理学 保育士養成課程』(pp.80-97, 158p) 4. 「第3章 見えることと共振のダイナミクス」、共著、平成25年9月、新曜社、上淵寿・フィールド解釈研究会編、『フィールド心理学の実践 インターフィールドの冒険』(pp.55-63, 219p) <p>(論文)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「保育における環境構成 保育実習との関連を視野に入れて」、単著、平成23年3月、京都文教大学 心理社会的支援研究創刊号 (pp.55-62) 2. 「社会性の発達を支える乳幼児期の子ども同士の遊び」、単著、平成25年1月、子どもと発達発達 Vol.10、No.4 (pp.216-220) <p>(学会報告、学会活動)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「地域の保護者支援の充実 ～保育所利用家庭、地域の子育て家庭にむけて～」 「子育て、子育て支援のネットワークと保育所の役割」(「子育てライフを支援する」 「多様な連携と協同をつくる」) 助言、平成22年7月、平成22年度四国ブロック保育研究大会第3分科会、全日空ホテルクレメント高松(香川) 2. 「子どもが見出す・つくり出す保育環境 「想定外」の使い方」(ポスター発表)、単独、平成23年5月、日本保育学会第64回大会、玉川大学(東京) 3. 「保育環境における想定外の使い方 保育者の対応とその理由」(口頭発表)、単独、平成25年11月、日本乳幼児教育学会第23回大会、千葉大学(千葉) 4. 「保育における物理的環境と想定外の使い方」(ポスター発表)、単独、平成26年3月、日本発達心理学会第25回大会、京都大学(京都) <p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)</p> <p>翻訳：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ポール・サガード著『脳科学革命 脳と人生の意味』、共訳、平成25年1月、新曜社、松井由佳共訳、無藤隆監訳、365p <p>その他：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「幼児の仲間関係構築に寄与する要因 相互作用の開始場面の分析から」、単著、平成22年7月、四国学院大学論集、132号 (pp.41-64)

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (4/5)

平成二十一〜二十五 (2009〜2013) 年度の主な研究成果等	<p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等 つづき)</p> <p>2. 「人間学研究所・臨床心理学部共催 Relax' masをあなたに ゆっくり まったり ホットコンサート 開催報告」、平成25年3月、共著、共著者：堀内詩子、京都文教大学 心理社会的支援研究第3集 (pp.101-103)</p> <p>3. 「京都文教大学 臨床心理学部 教育福祉心理学科 開設記念 特別講演会 実施報告」、平成25年3月、単著、京都文教大学 心理社会的支援研究第3集 (p.109)</p> <p>4. 「心を亡くさない『忙しさ』」、単著、平成26年3月、マイトリーチャ第13号、p.2</p>
	<p>(調査活動)</p> <p>平成22年 8月 保育所における乳幼児の遊びと保育環境に関する観察調査 (香川県)「平23.3まで」</p> <p>平成24年 5月 幼稚園における乳幼児の遊びと保育環境に関する観察調査 (兵庫県)「現在に至る」</p> <p>平成25年3月-5月 保育所および幼稚園における保育環境に関する質問紙調査 (兵庫県, 香川県)</p> <p>平成25年 5月 保育所における乳幼児の遊びと保育環境に関する観察調査 (兵庫県) 「現在に至る」</p> <p>平成25年 6月 幼稚園における公開保育への参加と保育観察 (奈良県)</p> <p>平成25年 8月 保育所における乳幼児の遊びと保育環境に関する観察調査 (香川県)</p> <p>平成25年10月 幼稚園における公開保育への参加と保育観察 (奈良県)</p>
	<p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)</p> <p>平成25年度- (3年間)</p> <p>科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金 (若手研究 (B))「子どもの遊びを育む保育環境 想定外を生かす環境構成」(課題番号: 25750379) 研究代表者</p>
	<p>(学内活動)</p> <p>平成24年 4月 新学科開設準備室委員「平25.3まで」</p> <p>宗教委員会委員「平26.3まで」</p> <p>平成25年 4月 教務委員会委員「平成27.3まで」</p> <p>「人を対象とする研究」倫理審査委員会委員「現在に至る」</p>
平成二十一〜二十五 (2009〜2013) 年度の社会における活動	<p>(自治体や企業における研修等の講師)</p> <p>平成21年11月 香川県健康福祉部子育て支援課主催、事業所内保育施設等保育従事者対象研修会講師、「保育所保育指針 改定と保育とのつながり」、於：サンメッセ香川</p> <p>平成22年 7月 高松市健康福祉部保育課主催、高松市公立保育所若手保育士 (1・2・3・5年目) 対象研修会講師、「かかわりから考える保育の専門性 なぜ?どのように?」、於：香川県立五色台少年自然センター</p> <p>平成22年11月 観音寺市子育てホームヘルパー養成研修会講師、「子どもの社会性：子どもの人間関係の発達」、於：観音寺市中央公民館</p> <p>平成26年 1月 宇治市私立幼稚園協議会第34回幼児教育研究大会講演、「遊びを通して子どもは育つ なぜ遊びは重要か」、於：宇治市生涯学習センター</p>
	<p>(その他)</p> <p>平成21年 4月 四国学院大学社会福祉学部子ども福祉学科 (平22.4より社会福祉学科) 准教授 「平23.3まで」</p> <p>平成23年 4月 1. 大阪人間科学大学非常勤講師 (子どもの発達支援の心理学)「平23.9まで」 2. 放送大学 非常勤講師 (子どもの遊び)「平23.9まで」 3. 京都文教大学人間学研究所客員研究員「平24.3まで」</p> <p>平成24年 3月 私立幼稚園の教育課程編成および研究紀要作成における助言 (兵庫県)</p> <p>平成24年 6月 2012年度京都文教大学オープンキャンパス模擬授業「子どもの遊びと発達～ただ遊んでいるだけ?～」、於：京都文教大学</p> <p>平成25年 1月 日本発達心理学会 国際研究交流委員「平27.1まで」</p>

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (5/5)

平成二十一年～二十五 社会こらぶれ活動 (2009～2013) 年度の	(その他 つづき) 平成25年 4月 京都文教大学人間学研究所共同研究プロジェクト「地域人材育成のためのプログラム構築と制度整備支援にむけた学際的研究」メンバー「現在に至る」 平成25年 8月 2013年度京都文教大学夏期オープンキャンパス模擬授業「子どもの遊びと発達～名前のつけられない遊び～」於：京都文教大学 平成25年 9月 甲南女子大学非常勤講師(保育内容総論)「平26.3まで」 平成25年10月 京都文教教養講座「子どもとこころ」第2回講師、「子どもの心を育む乳幼児期の遊び」於：京都文教大学 平成25年11月 第50回西宮市人権・同和教育研究集会(口頭発表)「つながろうよ、はなそうよ」「知る」「感じる」ことから始まる身近な人権」共同発表、於：西宮市立浜脇中学校 平成26年 3月 京都文教大学・社会福祉法人宇治福祉園共同企画 第2回こらぶれーしょんセミナー「子どもたちを豊かに育むまちづくりへの協同」パネリスト、於：京都文教大学
--	--